



Title	Studies on the changes of oxidative stress and autophagy in the hearts of streptozotocin-induced early diabetes rats, and the improvement effects by azuki bean (<i>Vigna angularis</i>) extract [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	富原, 朋美
Citation	北海道大学. 博士(保健科学) 甲第13705号
Issue Date	2019-06-28
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/74972
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Tomomi_Tomihara_abstract.pdf (論文内容の要旨)



[Instructions for use](#)

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（保健科学）

氏名：富原（北） 朋美

学位論文題名

Studies on the changes of oxidative stress and autophagy in the hearts of streptozotocin-induced early diabetes rats, and the improvement effects by azuki bean (*Vigna angularis*) extract

(ストレプトゾトシン誘導初期糖尿病ラットの心臓における酸化ストレスおよびオートファジーの変化と小豆抽出物による改善効果に関する研究)

【緒言】

糖尿病は高血糖症を特徴とする代謝性疾患で、様々な器官や組織で機能障害と合併症を引き起こす。常時収縮・弛緩を繰り返す心臓は恒常的にATP供給が必要で、ATPは主に脂肪酸(FA)と糖代謝で生産される。通常的心臓ではATPの60~70%をFAβ-酸化により生産するが、糖尿病では糖代謝が通常通り行えないため、FAβ-酸化によりATPの90~100%を生産する。心筋でのFA取込み・FA酸化の増加により生じる過度のROS生産は、細胞や組織へ酸化的ダメージを与える。その酸化的ダメージは、糖尿病性心筋症発症の特徴である心筋細胞死、線維化、心肥大、オートファジー機能異常を生じさせ、最終的には心不全を引き起こす。

最近の研究で、エピガロカテキン、ケルセチンやレスベラトロールのような植物由来ポリフェノールには、代謝性疾患における運動やカロリー制限に似た効果があり、肥満、心血管疾患や糖尿病に有益であることが示された。また、糖尿病発症から16週のSTZ誘導糖尿病マウスにおいて心肥大、線維化、オートファジー停滞が観察されるが、レスベラトロール長期投与が心機能低下、オートファジー機能異常、酸化的損傷を改善させたという報告がある。

小豆はプロアントシアニン、カテキンやケルセチンなどの植物由来のポリフェノールが豊富で、抗酸化作用がある。小豆は、酸化ストレス、高血圧、肥満や糖尿病に有益な効果をもつという先行研究がある。また、小豆抽出物(ABE)はSTZ誘導初期糖尿病ラットの腎臓で酸化的ストレスを減少させ、オートファジーを刺激することも知られている。しかし、初期糖尿病の心臓での酸化的ストレスやオートファジー機能変化についての研究はほとんどなく、ABEが糖尿病の心臓の機能変化の予防や改善に有効かどうかについては明らかにされていない。そこで本研究では、STZ誘導初期糖尿病(糖尿病発症後4週目)ラットの心臓における酸化ストレス状態および酸化ストレスと密接な関係にあるオートファジー機能の変化を明らかにすること、およびABEが心臓での酸化的ストレスやオートファジー機能変化にもたらす効果を明らかにすることを目的とした。

【対象と方法】

実験にはWistar系雄ラットを用い、12時間の明暗サイクル下で $23\pm 1^{\circ}\text{C}$ の温度で飼育した。6週齢のラットに対し0.05Mクエン酸緩衝液(pH4.6)0.5mLに溶解したSTZを尾静脈に単回静脈内注射(55mg/kg体重)した。STZ注入45時間後に血漿中グルコース濃度を測定し300mg/dL以上の動物を糖尿病モデルラットとして用いた。コントロール群(Cont群)と糖尿病群(STZ群)には蒸留水のみを、糖尿病+ABE投与群(STZ+ABE群)には40mg/kgのABE溶液を4週間経口投与した。一晚絶食させた後、ジエチルエーテルによる吸入麻酔下で解剖し、血液と心臓を採取した。

血漿中のグルコース濃度はグルコースCII-テストワコーを用いて測定し、心臓組織中の酸化ス

トレスおよびオートファジー関連タンパク量はウェスタンブロット法を用いて測定した。また、8-OHdG は、特異的なモノクローナル抗体を用いて ELISA により測定した。統計分析は一元配置分散分析後、Fisher's exact test を行った。

【結果】

Cont 群と比較して糖尿病群 (STZ 群、STZ+ABE 群) において血漿中のグルコース濃度およびペルオキシソームに局在する ACOX1 とカタラーゼ量は有意に高かった。STZ 群における p62、リン酸化 p62 (p-p62) および HO-1 量は、Cont 群と比較して有意に高く、ABE 投与により p-p62、HO-1 および 8-OHdG のレベルは有意に低下した。mTOR、Beclin1、LC3 (LC3 II / LC3 I 比) や Atg7 量などのオートファジー誘導・開始に関連するタンパク質量は各群において有意な変化は認められなかったが、オートファゴソーム-リソソーム融合に関連する LAMP2 量および融合阻害に関連する O-GlcNAc 修飾タンパク質量は Cont 群と比較して STZ 群において有意に高かった。一方、STZ+ABE 群においては有意な変化はみられなかった。

【考察】

FA β -酸化が行われると、その過程で H_2O_2 などの ROS が生成され、細胞にダメージを与えることが知られている。ACOX1 はペルオキシソームの直鎖 FA β -酸化システムの律速酵素であり、カタラーゼの標的基質である H_2O_2 を生成する。ペルオキシソームに局在するカタラーゼは、 H_2O_2 から酸素と水への変換を触媒する抗酸化酵素である。糖尿病群で ACOX1 量およびカタラーゼ量が増加したことから、ペルオキシソーム FA β -酸化および H_2O_2 産生が増加したことが示唆された。ABE の投与はこの変化に影響を及ぼさなかった。STZ 群において酸化ストレスマーカーである p62、p-p62、HO-1 量は Cont 群と比較して有意に高かったことから、STZ 群の心臓は酸化的ダメージが大きいことが示唆された。また ABE 投与により p-p62、HO-1 および 8-OHdG のレベルは STZ 群と比較して有意に低下した。これらのことより、ABE は STZ 誘導糖尿病により上昇した血糖値や ACOX1 量の増加に対して効果はなかったが、酸化的損傷を抑える効果があることが明らかになった。

先行研究でオートファジーに必須なタンパク質の欠損などによりオートファジー機能不全が生じると、損傷した細胞小器官やタンパク質などのオートファジーで分解される物質をオートファゴソームへ運搬する役割を担う p62 や p-p62 が蓄積することが知られている。また、糖尿病モデル動物 (糖尿病発症から 16 週) の心臓においても p62 の蓄積が報告されている。本研究でも p62、p-p62 量が STZ 群で有意に増加していたため、STZ 誘導初期糖尿病ラットの心臓でもオートファジー機能異常が生じていることが示唆された。このメカニズムを明らかにするため、オートファジー関連タンパク質について検討した。オートファジーの誘導・開始で重要な mTOR、Beclin1、LC3 (LC3 II / LC3 I 比) および Atg7 量は各群において有意な変化は認められなかった。しかし、オートファゴソームとリソソームの融合に必要な LAMP2 量、それらの融合阻害に関連する O-GlcNAc によるタンパク質修飾は Cont 群と比較して STZ 群において有意に高かった。これらの結果から、初期糖尿病の心臓ではオートファジー誘導・開始関連タンパク質に変化はないが、p62・p-p62 量の増加とオートファゴソームとリソソームの融合に関連するタンパク質に変化が生じていることが示された。これらの変化は、ABE 投与により抑制されることが明らかになった。

【結論】

STZ 誘導初期糖尿病ラットの心臓でペルオキシソーム ACOX1、カタラーゼ、p62、p-p62 および HO-1 量が増加したことから、初期糖尿病の心臓ではペルオキシソーム FA β -酸化が亢進し、酸化的ストレスが増加していることが示唆された。ABE は酸化ストレスマーカーである p-p62、HO-1、8-OHdG レベルを有意に低下させた。これらの結果から、ABE は抗酸化作用を有し、STZ 誘導初期糖尿病ラットの心臓を酸化的損傷から保護することが示唆された。

STZ 群において p62、p-p62 量、およびオートファゴソームとリソソームの融合に関連する LAMP2、O-GlcNAc 修飾が Cont 群と比較して有意に増加したことから、STZ 誘導初期糖尿病ラットのオートファジー機能に異常が生じていることが示唆された。また、糖尿病動物の心臓におけるオートファジー機能異常は、オートファゴソームとリソソームとの融合阻害から始まる可能性が示唆された。これらの結果から、ABE には初期糖尿病による p62、p-p62、LAMP2 および O-GlcNAc 修飾量の増加を抑える効果があり、糖尿病初期からの ABE 投与はオートファジー機能の維持にも効果がある可能性が示唆された。